

大学番号：私128

届出

[平成22年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

東京成徳大学人文学部観光文化学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東京成徳学園  
平成23年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部  
(□□学部)  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」  
「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 東京成徳学園

## (2) 大学名

東京成徳大学

## (3) 大学の位置

〒276-0013

千葉県八千代市保品字中台谷2014番

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学長	(キウチ ヒデトシ) 木内 秀俊 (平成17年9月)		
学部長	(ヒヤマ ミチヒコ) 日山 紀彦 (平成20年4月)		
学科長	(アキヤマ シュウイチ) 秋山 秀一 (平成22年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	
人文学部 観光文化学科 学士(観光文化)	4年	70人	3年次 3人	286人

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	70人 (-) [-]	-	70人 (-) [-]	-	70人 (3) [-]	-	70人 (3) [-]	-	0.24倍	
志願者数	21 (-) [3]	- (-) [-]	43 (-) [3]	- (-) [-]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	21 (-) [3]	- (-) [-]	41 (-) [3]	- (-) [-]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	19 (-) [2]	- (-) [-]	39 (-) [3]	- (-) [-]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	13 (-) [2]	- (-) [-]	21 (-) [2]	- (-) [-]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.18		0.30							

- (注) ・ ( ) 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( )) 書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。  
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。  
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ 2 ] 13	[ - ] -	[ 2 ] 21	[ - ] -	[ ]	[ - ] -	[ ]	[ - ] -	
2年次	/		[ 2 ] 13	[ - ] -	[ ]	[ - ] -	[ ]	[ - ] -	
3年次	/		/		[ ]	[ - ] -	[ ]	[ - ] -	
4年次	/		/		/		[ ]	[ - ] -	
計	[ 2 ] 13		[ 4 ] 34		[ ]		[ ]		

(注) ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数(a)	在学者数(b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [ 0 ] 0人	(累積)計 [ 2 ] 13人	[ 0% ] 0%
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 13人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 [ 0 ]	(累積)計 [ 4 ]	0.0%
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 13人	
	うち平成23年度入学者 0人	うち平成23年度 21人	
	(主な退学理由)		
平成24年度	計 [ ]	(累積)計 [ ]	[ % ] %
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	うち平成24年度 人	
(主な退学理由)			
平成25年度	計 [ ]	(累積)計 [ ]	[ % ] %
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	平成24年度 人	
うち平成25年度入学者 人	平成25年度 人		
(主な退学理由)			

- (注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度の前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
  - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
    - ・就学意欲の低下
    - ・学力不足
    - ・他の教育機関への入学・転学
    - ・海外留学
    - ・就職
    - ・学生個人の心身に関する事情
    - ・家庭の事情
    - ・除籍
    - ・その他

## 2 授業科目の概要

<人文学部 観光文化学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通領域	キャリアデザイン	1前	2				1				} 入学者数が見込みを下回ったため、開講数を3から1(講師担当)へ変更(22)	
	基礎演習	1前	2			1	1	±				
	ディベート	1後	2				2	±				担当教員の辞任に伴う変更(23)
			1後									
		文章表現法	1前	2								履修上のバランスを図るため開講時期を変更(23)
		情報入門Ⅰ	1前	2				1				
		情報入門Ⅱ	1後	2				1				
		福祉心理学入門	1後	2								
		英語会話	1通	2								
		総合英語	2通	2				1				担当教員の変更(23)
		フィットネス	1前	1								担当 高野泰(准教授)
	基礎教養科目	哲学A(人間と社会)	1・2・3前		2							
		哲学B(人間と自然)	1・2・3後		2							
		文学A(日本)	1・2・3前		2							
		文学B(世界)	1・2・3後		2							
		芸術学A(前近代)	1・2前		2							
		芸術学B(近現代)	1・2後		2							
		政治学A(政治の制度と思想)	1・2・3前		2							
		政治学B(現代日本の政治)	1・2・3後		2							
		法学A(法とは何か)	1・2前		2							
		法学B(法の体系)	1・2後		2							
		経済学A(基礎)	1・2・3前		2							
		経済学B(応用)	1・2・3後		2							
	現代教養科目	社会学A(社会学の基礎理論)	1・2・3前		2							
		社会学B(現代日本の社会)	1・2・3・4後		2							
		人文地理A(日本)	1・2前		2							
		人文地理B(世界)	1・2後		2							
		心理学A(基礎心理)	1・2・3前		2							
		心理学B(臨床心理)	1・2・3後		2							
		環境科学	1・2・3・4前		2							
自然科学入門		1・2・3前		2								
情報演習A(情報発信)		1・2・3・4前・後		2				1				
健康科学		1・2前		2								
健康スポーツ		1・2後		1								
現代倫理学A(生命・生活)		1・2前		2								
現代倫理学B(環境・情報)	1・2後		2									
現代日本の歴史	1・2後		2									
		未開講										
	現代世界の歴史A(アジア)	1・2前		2				±			担当教員辞任のため(23)	
	現代世界の歴史B(欧米)	1・2後		2								
現代教養科目	日本国憲法A	1・2・3・4前		2								
	日本国憲法B	1・2・3・4後		2								
	国際関係論A(政治)	1・2・3前		2								
	国際関係論B(経済)	1・2・3後		2								
	現代日本の経済	1・2・3・4前		2								
	福祉社会論	1・2後		2								
	情報社会論A(技術)	1・2前		2								
	情報社会論B(生活)	1・2後		2								
	ジェンダー論A(歴史と現状)	1・2前		2								
	ジェンダー論B(男女平等社会)	1・2後		2								
	地球環境問題	1・2・3・4後		2								
	現代技術論	1・2後		2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通領域	現代教養科目	スポーツ科学		2								
	情報演習B(検定資格対策)	2・3前・後		2								
	情報演習C(プログラミング)	2・3後		2			1					
	情報演習D(画像処理)	2・3前・後		2								
	キャリアデザイン実習Ⅰ	2・3後		1								
	キャリアデザイン実習Ⅱ	3・4後		3								
	小計(56科目)	—	19	91	0	1	2	0	0	0		
特設科目	日本語(現代文A)	1前		1								外国人留学生、帰国子女
	日本語(現代文B)	1後		1								
	日本語(文法A)	1前		1								
	日本語(文法B)	1後		1								
	日本語(作文A)	1前		1								
	日本語(作文B)	1後		1								
	文章読解A	2前		2								
	文章読解B	2後		2								
	文章表現A	2前		2								
	文章表現B	2後		2								
	日本事情A(歴史・地理・時事)	1前		2								
	日本事情B(政治・経済・文化)	2前		2								
	小計(12科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0		
専門領域	地域研究	観光文化基礎	1前	2		1						担当教員の辞任に伴う変更(23) 担当 海口晴彦(兼任) 履修上のバランスを図るため、開講時期を変更(22)
		観光文化研究	1後	2			1					
		フィールドワーク入門	1前	2					1			
		地域文化研究(日本)	1・2前		2			1				
		地域文化研究(ヨーロッパ)	1・2後		2		1					
		地域文化研究(アメリカ)	1・2前		2			1				
		地域文化研究(中国)	1・2後		2				1			
		地域文化研究(韓国)	1・2後		2		1					
		地域文化研究(東南アジア)	1・2前		2							
		自然地理学	1後		2		1					
		文化人類学	2後		2							
		ユネスコ活動研究	2休		2		1					
	映像人類学	3休		2								
	国際情勢	3前		2								
	文化比較	比較文化論	2後	2				1				担当教員の辞任に伴う変更(23) 担当 直井文子(兼任)
		旅の文学論(概説)	3前	2			1					
		旅の文学論(講読)	3・4後		1		1					
		東西交流史	1前		2		1					
		日中交流史	2前		2				1			
		日韓交流史	2後		2			1				
		観光文化史	2前		2			1				
		文化遺産論	1後		2							
		景観文化論	1前		2							
		宗教社会学	3前		2		1					
		東アジア考古学概説	未開講 1前		2							
		東アジア比較文化論	未開講 2前		2							
		日本文化史概論	3後		2							
日本美術史概論		3後		2								
日本文学概論		3後		2								
日本文学史概論(古典)	3前		2									
日本文学史概論(近現代)	3後		2									
比較文学論	2前		2									
伝統文化(歌舞伎入門)	4前		2									
伝統文化(歌舞伎鑑賞)	4後		2									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専領域	文化	コミュニケーション概論		2			1					
		コミュニケーション特講	2・3・4後		2							
		日本語の世界Ⅰ	3後		2							
		日本語の世界Ⅱ	3後		2							
		英語会話Ⅰ	未開講 2前		1							履修希望者がいなかったため(23)
		英語会話Ⅱ	未開講 2後		1							履修希望者がいなかったため(23)
		観光英語(入門)	1後		1		1					
		観光英語(初級)	未開講 2前		1		1					履修希望者がいなかったため(23)
		観光英語(中級)	2・3後		1		1					
		World Englishes	4後		2							
		ビジネス英語	3・4前		2		1					
		中国語の世界Ⅰ	2後		2							
		中国語の世界Ⅱ	3前		2							
		ハンガルの世界Ⅰ	2後		2							
		ハンガルの世界Ⅱ	3前		2							
		異文化コミュニケーションⅠ	1前		2							
		異文化コミュニケーションⅡ	1後		2							
		観光	観光リサーチ	観光社会学	2前	2			1			
	基礎統計学			2前	2				1			
	国際社会学			1・2後		2						
	社会調査入門			1前		2			1			より体系的な履修方法とするため、開講時期を変更(22)
	データ収集・分析法入門			1後		2						
	データ分析実習			2・3後		2				1		
	観光メディア		初等多変量解析	2後		2				1		
			質的分析法	2・3後		2		1				
			社会調査実習	3・4通		4		1				
			観光マーケティング論	2後		2			1			
			ミュージアム・マーケティング論	2後		2						
			観光情報論	2前	2			1				
	観光マネジメント		観光メディア論	2後		2						
			メディア文化論	3・4前		2						
			メディア文化特講	3後		2						
			出版文化論	4前		2						
			出版文化特講	4後		2						
			文化情報技術論	4前		2						
	観光マネジメント	アジア観光情報論	3後		2							
観光教育		未開講 2・3前		2						履修希望者がいなかったため(23)		
観光写真		2・3前 2・3後		2		1				履修上のバランスを図るため、開講時期を変更(23)		
フィルムツーリズム		2後		2		1						
トラベルライター入門		3後		2		1						
観光事業論		1前	2			1						
観光マネジメント	宿泊産業論	1後		2		1						
	宿泊事業経営論	3前		2		1						
	財務会計論	3・4後		2		1						
	国際金融論	2前		2				1				
	交通機関論	2前		2				1				
	サービスマネジメント論	2前		2				1				
	フードサービス論	2前		2								
	ホスピタリティ論	3後		2								
観光リゾート論	3後		2				1					
地域開発論	3・4前		2									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域	観光 観光マネジメント	まちづくり概論		2								
		エコツーリズム	2後	2								
		産業観光論	2後	2		1						
		国際航空論	2後	2								
		観光関連法規A	1後	2								
		観光関連法規B	2前	2								
		観光行政	3前	2								
		旅行業論	2前	2								
		国内旅行実務演習	2後	1								
		海外旅行実務演習	3前	1								
	国際空港研究	2後	2		1							
	フィールドワーク	フィールドワーク(日本対象)	2・3後		2			1				
		フィールドワーク(ヨーロッパ対象)	2・3後 2・3前		2		1					フィールドワークの実施時期の変更に伴う開講学期の変更(23)
		フィールドワーク(アメリカ対象)	未開講 2前		2			1				履修希望者がいなかったため(23) 担当教員の辞任に伴う変更(23) 担当 大井剛(教授)
フィールドワーク(アジア対象)		2後		2		1		±				
	観光デザイン演習	3通	2		5	3		±			平成24年度開講 担当教員の辞任に伴う変更(23)	
	インターンシップ	1前		2	1							
	卒業研究	4通	6		5	3		±			平成25年度開講 担当教員の辞任に伴う変更(23)	
	小計(103科目)	—	28	175	0	5	3	±	0	0		
	合計(171科目)	—	47	284	0	5	3	±	0	0		

(注)・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

- 届出時の授業科目全て(兼任, 兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。

なお, 昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。

- 「配当年次」について, 届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても, 届出時の状況を黒字で記載してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても, 「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし, 「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

## (2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
22	149	0	171	22	149	0	171	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

(注)・未開講である場合や, 配当年次に関わらず, 教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など, 別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに, [ ] 内に, 届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ 1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	現代世界の歴史A(アジア)	2	1・2前	一般	選択	担当教員の退職による未開講。他の選択科目が多数あるため、代替措置は行っていない。

- (注)・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注)・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

本年2月、担当教員は本年4月から他大学の専任教員就任が決定したため、退職の申し出があった。後任については、時期的に困難と判断し、また、他の選択科目も多数あることから未開講とした。  
学生への周知は、学生に配布する授業時間割表に掲載するとともに、4月当初のオリエンテーションで周知した。

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	・子ども学部、経営学部 (東京都北区)は東京成 徳短期大学と共用。 ・借地面積:7,386㎡ (千葉県八千代市) 〔貸与者〕 伊藤唐雄 4,081㎡ 伊藤博道 3,305㎡ 借用期間:平成4年6月1 日から20年		
	校 舎 敷 地	79,282㎡ (7,386㎡)	16,355㎡	0㎡	95,637㎡ (7,386㎡)			
	運 動 場 用 地	47,056㎡ ( 0㎡)	20,374㎡	0㎡	67,430㎡ ( 0㎡)			
	小 計	126,338㎡ (7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡ (7,386㎡)			
	そ の 他	0㎡ ( 0㎡)	0㎡	0㎡	0㎡ ( 0㎡)			
合 計	126,338㎡ (7,386㎡)	36,729㎡	0㎡	163,067㎡ (7,386㎡)				
(2) 校 舎		専 用 22,189㎡ (22,189㎡)	共 用 17,091㎡ (17,091㎡)	共用する他の 学校等の専用 937㎡ (937㎡)	計 40,217㎡ (40,217㎡)	図書館、体育館等を含む。 共用17,091㎡は、子ども学 部、経営学部と東京成徳短 期大学が共用。共用する他 の学校等の専用は、東京成 徳短期大学。		
(3) 教 室 等	講 義 室 47室	演 習 室 38室	実 験 実 習 室 41室	情 報 処 理 学 習 施 設 7室 (補助職員 1人)	語 学 学 習 施 設 1室 (補助職員 0人)	大学全体 子ども学部、経営学部は 東京成徳短期大学と共用。 講義室19室、演習室26室、 実験実習室17室、情報処理 学習施設4室、語学学習施 設1室。		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 人文学部観光文化学科			室 数 9 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	人文学部日本伝統文化 学科、国際言語文化学 科及び応用心理学部と 共用
	人文学部 観光文化学科	2,589 [246] <b>2,893 [178]</b> (2,592 [149]) <del>-(2,289 [157])</del>	18 [5] <b>7 [0]</b> (7 [0]) <del>-(12 [2])</del>	0 [0] <b>0 [0]</b> (0 [0])	517 <b>417</b> (417) <del>-(457)</del>	90 <b>70</b> (68) <del>-(70)</del>	0 <b>0</b> (0)	図書〔うち外国書〕 91,836冊 [15,764冊] 学術雑誌〔うち外国書〕 239冊 [77冊] 視聴覚資料 5,164点 機械・器具 812点 標本 18点
	計	2,589 [246] <b>2,893 [178]</b> (2,592 [149]) <del>-(2,289 [157])</del>	18 [5] <b>7 [0]</b> (7 [0]) <del>-(12 [2])</del>	0 [0] <b>0 [0]</b> (0 [0])	517 <b>417</b> (417) <del>-(457)</del>	90 <b>70</b> (68) <del>-(70)</del>	0 <b>0</b> (0)	
(6) 図 書 館	面 積 3,526㎡	閱 覧 座 席 数 269席	収 納 可 能 冊 数 285,000冊	大学全体。子ども学部、 経営学部は東京成徳短 期大学と共用。面積 2,324㎡、閲覧座席数120 席、収納可能冊数 200,000冊。				
(7) 体 育 館	面 積 5,193㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場 サッカー場 テニスコート8面 ゴルフ練習場				大学全体。体育館1,423 ㎡は子ども学部、経営学 部と東京成徳短期大学 が共用。		
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	平成23年度入学者から 年度の納付額を変更 (23)
	経費の見積り 教員1人当り研究費等	405千円	405千円	図書購入費	1,000千円	500千円	500千円	
	共同研究費等	750千円	750千円	設備購入費	700千円 1,000千円	1,000千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 <b>1,355千円</b> <b>1,390千円</b>	第2年次 <b>1,025千円</b> <b>1,040千円</b>	第3年次 <b>1,025千円</b> <b>1,040千円</b>	第4年次 <b>1,025千円</b> <b>1,040千円</b>	第5年次 —	第6年次 —	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、学園積立資金等						

(注)・届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え出し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
- ・なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	東京成徳大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	・平成22年度より定員変更(60→40人、平成24年度より編入学定員4→1人) ・平成22年度より定員変更(専攻廃止により90→40人、平成24年度より編入学定員6→1人) ※平成22年度より国際言語文化学科の専攻廃止に伴う学生募集停止 ※平成21年度より定員変更(70→50人、福祉心理学科)、平成23年度より編入学定員変更(5→3人、福祉心理学科、臨床心理学科)
人文学部	年	人	年次人 3年次	人		倍			
日本伝統文化学科	4	40	4	208	学士(日本伝統文化)	0.69	平成13年度	千葉県八千代市保品字中台谷2014番	
国際言語文化学科	4	40	1	80	学士(国際言語文化)	0.65	平成13年度		
英米言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
アジア言語文化専攻	4	—	—	—	学士(国際言語文化)	—	平成13年度		
応用心理学部									
福祉心理学科	4	50	3	228	学士(福祉心理学)	0.64	平成20年度		
臨床心理学科	4	70	3	288	学士(福祉心理学)	1.14	平成20年度		
健康・スポーツ心理学科	4	50	4	154	学士(健康・スポーツ心理学)	1.12	平成21年度		
子ども学部 子ども学科	4	90	10	380	学士(子ども学)	1.13	平成16年度	東京都北区十条台1丁目7番13号	
経営学部 経営学科	4	100	10	310	学士(経営学)	0.86	平成21年度		
大学の名称	東京成徳短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	東京都北区十条台1丁目7番13号
言語文化コミュニケーション科	2	85	—	170	短期大学士(言語文化)	0.41	平成12年度		
幼児教育科	2	180	—	360	短期大学士(幼児教育)	1.07	昭和41年度		

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

・設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。

・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (22年5月)	<p>○ 応用心理学部福祉心理学科、人文学部日本伝統文化学科、国際言語文化学科、観光文化学科、東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。</p>	<p>○応用心理学部福祉心理学科は、①学科ホームページの充実：卒業生の進路状況・進路の紹介、学科の目標の明確化など、②オープンキャンパスにおける広報：カリキュラム編成の解説、取得可能資格の説明など、③高校訪問の充実等々の取り組みを行ったものの、入学者は定員に及ばなかった。</p> <p>○人文学部日本伝統文化学科は、平成20年度の大規模な定員割れの対策として、実体験重視の学科として広報を行うことに重点を置き、①従来の学外研修を体系的に練り直す、②夏期フィールドワークの導入、③プロジェクト活動の充実、④博学連携授業の推進、⑤伝統文化マイスター制度の導入等の活動を行い、これらの活動を大学ホームページ、学科ブログ、報告書等の送付などにより募集につなげるべく活動を行った。</p> <p>また、22年度から入学定員を40名に変更し、これを機に、大学で学んだ伝統文化を社会に生かす、すなわち、就職への橋渡しおよび就職への学生のモチベーションを高めるために、カリキュラムを改変し、新たに文化マネジメント、出版およびメディア文化論等の科目を導入した。このことにより、就職につながらない文化系学科というイメージを打破したいと考えている。</p> <p>入学者は、21年度より若干増加したが、23年度は減少したため、さらなる対策が必要である。</p>	<p>○今後は、①高校訪問の検討：在学生の高校訪問計画、②指定校の検討：福祉系高校の指定校について、③学会認定資格である福祉心理士の資格取得についての広報等々を計画している。</p> <p>○平成22年度から導入した文化マネジメント等の新カリキュラムは、今年度から順次開講される。これらの科目の教育により、学生が社会に出てその一員として社会を支えてゆく力を養うとともに、学生が卒業時に自信を持って社会に踏み出せるように支援をしてゆく。このことがまた、受験生に対する学科の信頼を得ることにつながると思われる。</p> <p>従来の実体験重視の教育、少人数教育によるきめ細かな指導に加えて、新カリキュラムの教育等により就職を支援し、社会を支える人材を育てることを目指す学科の教育内容をしっかりと広報することにより、定員の充足を目指す。</p>

		<p>○人文学部国際言語文化学科は、平成22年度から専攻を廃止し、入学定員を40人に変更した。あわせて教育課程の変更も行い、(1)英語集中学習プログラム、(2)補習授業(自由科目)の設定、(3)留学制度の充実、(4)国際文科系科目群の設定などを骨子とした改善を行なった。また、定員減に伴い、よりきめ細やかな指導を目指している。これまで入学した学生への指導も予定通り順調に履行している。その結果、昨年度の定員充足率は6割であったが、本年度は7割とやや増加したものの、定員には及ばなかった。</p> <p>○人文学部観光文化学科は、平成23年度の入学者は21名で、定員70名を大きく下回った。平成22年度開設の準備段階からこのかた実施した幅広い広報活動にかかわらず、「観光文化」の学科コンセプトが十分に理解されなかったことなどに起因するものと思われる。</p> <p>○東京成徳短期大学言語文化コミュニケーション科については、社会情勢の変化を勘案し、平成24年度以降の学生募集を停止することが平成22年12月の学園理事会にて決定した。</p>	<p>○来年度は、定員確保できるよう、より一層受験生及び高等学校に対して本学科の特徴を効果的に周知を図りながら、定員確保に向けて努力を傾注したい。</p> <p>○平成24年度の学生募集において、多様な需要にこたえる人材養成をめざす学科コンセプトと、それぞれの進路に対応したカリキュラム構成などについて、高校生・高校教員の理解を得るべく、教員との交流・高校生フォトコンテスト・インターネット情報発信などの方法により、定員充足に努める。</p> <p>○該当なし</p>
--	--	---	--

(注)・「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。

- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

＜人文学部 観光文化学科＞

### (1) 設置計画変更事項等

該当なし

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教員の資質の向上を図る組織として、平成10年度に「授業改革委員会(後の授業研究委員会)」を設置し、学生による授業評価や他の教員による授業参観などを通じて授業の自己点検・評価を実施し、授業方法の改善等を行ってきた。更に平成17年度に授業改善委員会(現 授業改善(FD)委員会)に改編し、教員のファカルティ・ディベロップメントの企画及び任務を加えた。</p> <p>(別添「東京成徳大学人文学部・応用心理学部専門委員会規程」)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>授業改善(FD)委員会は、年5回程度(平成21・22年度については3回)開催されるが、審議内容によってはE-mailより意見交換を行っている。委員は、学長が任命した委員長と各学科等の長が指名した7名の計8名で構成される。委員会はこれらの構成員がほぼ全員出席のもとに行われている。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>授業改善(FD)委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法の改善に関すること</li> <li>・ 教員のファカルティ・ディベロップメントに関すること</li> <li>・ 学生の授業評価に関すること</li> <li>・ その他委員会が必要と認めた事項</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業アンケート</li> <li>・ FDセミナー</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業アンケートは全教員を対象として実施している。その結果は授業担当教員にフィードバックされ、教育指導や授業の改善に役立っているほか、これらを取りまとめて公表している。</li> <li>・ FDセミナーは平成17年度から実施している。わかりやすく学生が興味を抱く授業の進め方、私語をしにくい環境の作り方、授業評価の分析、障害学生の教育面での配慮等、授業担当教員が指導上行った工夫やアイデアなどを紹介し、教育面の資質の向上に役立っている。</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業アンケートは、全ての授業担当者(専任・兼任)を対象に2年ごとに実施している。</li> </ul> <p>【平成21年度】</p> <p>対象教員:全教員(非常勤講師含む)</p> <p>実施科目:必修科目もしくは履修者が最も多い科目を選定</p> <p>実施時期:前期開講科目 7月、通年及び後期開講科目 1月</p> <p>【平成22年度】</p> <p>前年度前期及び後期に実施した授業アンケートの結果を授業改善(FD)委員会で取りまとめ、平成22年7月に刊行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FDセミナーは毎年実施し、全専任教員が参加する。</li> </ul> <p>【平成21年度】</p> <p>第1回FDセミナー「FDフォーラム参加報告」平成21年7月2日(木) 全専任教員参加</p> <p>第2回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(1) 人文学部」平成22年1月21日(木) 全専任教員参加</p> <p>第3回FDセミナー「授業アンケート結果の分析(2) 応用心理学部」平成22年2月4日(木) 全専任教員参加</p> <p>【平成22年度】</p> <p>FDセミナー「ミニシンポジウム“学生の多様化”をめぐる現状と課題」平成23年2月17日(木) 全専任教員参加</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>学生による授業アンケートの集計結果は、授業の改善等に役立っている他、これらは印刷物にとりまとめて教職員・学生に公開している。また、前述の分析結果はFDセミナーで発表し、教授方法の工夫・改善等の参考としている。</p>
---

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
 ・ 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

観光文化学科は、社会人基礎力と多様で個性的な観光を創造する観光デザイン力の修得を理念として、幅広い教養に基づく着実な実務能力をそなえた社会人を育て、観光関連産業はもとよりさらに広い世界で活躍しうる人材を養成することをめざしている。

平成23年度は入学定員70名に対して21名の入学者があった。前年度に比して格段の増加であるが、なお定員の充足には遠い状況である。

設置趣旨書に記載の通り、すべての教育課程にかかわる基幹科目として「フィールドワーク」(2年次以降)を位置づけ、そこに至る導入として「フィールドワーク入門」(1年次)において神奈川県鎌倉市・千葉県佐原市ほか豊かな文化をいづく地域の実地調査をおこなった。また本年度は日本を含む世界の主要4地域をそれぞれ対象とする「フィールドワーク」の実施を予定している。

文学と社会学の学際領域において構成された観光文化学科は、開設準備段階から「TSUツーリズム・セミナー」を組織し、同学科を構成する専任および兼任教員を中心として、観光文化に関するレクチャーを継続的に開催している。その過程で、観光文化を学問的に追究するとともに、本学科の教育研究の質的向上を図った。平成22年度は下記の開催をはじめ全16回実施した。このセミナーは、平成23年度以降も継続し、広く学外にも公開することにより、教育課程のいっそうの充実を図りたい。

TSUツーリズム・セミナー (事例)

第23回「観光とアニメーション」岡本健 北海道大学大学院

第25回「旅行業の現況 -実務の解説とともに-」稲林基裕 近畿日本ツーリスト株式会社千葉教育旅行支店

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表(予定)時期

・観光文化学科を含む自己点検・評価報告書は、平成22年度及び23年度分を平成24年7月に公表する予定。

##### b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係者に配布。
- ・大学ホームページ上に公開中。

#### ③ 認証評価を受ける計画

- ・平成20年度に、財団法人日本高等教育評価機構による評価を受け、同機構が示すすべての評価基準項目について「基準を満たしている」との評価を受けた。
- ・次回の受審時期は未定。

(注) ・ 届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) ( 平成23年6月10日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク  
(  承諾する ・  承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
(<http://www.tsu.ac.jp/guide/license.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。  
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : [d-secchi@mext.go.jp](mailto:d-secchi@mext.go.jp)

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。